

## Ⅱ 調査結果の概要

### 一部で好転の兆しも、人手不足や原材料高が目立つ

#### 1. 全体の概況

売上高と収益性を合せたD I 平均値（前年同期比）〔※「前年同期比」は、28年10-12月期と比較した値。以下、「同期比」と表記〕については、▲10.3となり、前回調査(29年7-9月期)の▲14.3から4.0ポイント上昇している。来期見通しにおいては、0.9ポイント上昇して▲9.4となる見通しになっている。

売上高D I（同期比）については▲7.3となり、前回調査から6.8ポイント上昇している。来期見通しにおいては0.3ポイント上昇して▲7.0となる見通しになっている。

収益性D I（同期比）については▲13.2となり、前回調査から1.3ポイント上昇している。来期見通しにおいては1.5ポイント上昇して▲11.7となる見通しになっている。

業況D I（同期比）については▲8.5となり、前回調査から4.0ポイント上昇している。来期見通しにおいては今回調査と同じく▲8.5となる見通しになっている。

原材料価格D I（前期比）については39.8となり、前回調査から14.1ポイント上昇している。

販売価格D I（前期比）については▲2.7となり、前回調査から0.9ポイント上昇している。

資金繰りD I（前期比）については▲6.3となり、前回調査から6.3ポイント上昇し、好転している。

金融機関の態度D I（前期比）については3.5となり、前回調査から4.3ポイント上昇し、緩和している。

設備投資実施率については30.1%となり、前回調査から3.2ポイント上昇している。業種別で高い実施率となったのは「プラスチック製品」・「金属・同製品」で、目的別では「品質向上」が28.6%でトップとなっている。

来期の設備投資計画率については33.0%となり、前回調査から0.2ポイント上昇している。

設備操業率D I（前期比）については▲0.9となり、前回調査から6.8ポイント上昇している。











雇用人員判断D I（前期比）については25.2となり、前回調査から4.5ポイント上昇し、不足感は一層の高まりを見せている。

全体の景況天気図は、前回同様「小雨」が続いており、来期見通しにおいても「小雨」が続く見通しとなっている。

業種別に見ると「紙・加工品」は「曇」から「薄日」、「繊維・同製品」は「雨」から「小雨」へそれぞれ回復している。反面、「金属・同製品」は「曇」から「小雨」、「プラスチック製品」・「木材・木製品」は「小雨」から「雨」へそれぞれ悪化している。また、「機械・機器」は「曇」、「窯業・土石製品」・「食料品」は「小雨」と、それぞれ前回調査同様の天気図となっている。

来期見通しにおいては「繊維・同製品」・「金属・同製品」は「小雨」から「曇」へそれぞれ回復。反面、「紙・加工品」は「薄日」から「小雨」へ悪化。「機械・機器」は「曇」、「窯業・土石製品」・「食料品」は「小雨」、「プラスチック製品」・「木材・木製品」は「雨」がそれぞれ続く見通しとなっている。

【図表 1】

	27	28				29				来 期 見 通
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	
全 体	 ▲14.9	 ▲20.6	 ▲22.2	 ▲21.3	 ▲22.3	 ▲17.8	 ▲4.1	 ▲14.3	 ▲10.3	 ▲9.4

※景況天気図は「売上高」「収益性」(同期比)のD I 平均値を下記の基準に当てはめたもの。



【図表 2】

